

巻 頭 言

環境調和型鉄鋼技術小特集号刊行にあたって

鉄鋼技術センター
常務 福 武 諄



21 世紀に入り世界規模での環境に配慮した社会基盤の構築が急速に進展している。我が国においてもダイオキシン，土壤汚染対策法など有害物質に関する環境規制の強化に始まり，廃プラスチック，家電，容器，自動車リサイクル法など循環型社会の構築に向けた法整備，更には地球温暖化防止に向けた，産業別の自主行動の推進が求められている。過去の量的な発展志向の社会から安全・安心な社会への構築が求められている。一企業としてもいかに環境に対して貢献する活動を行っているかが企業評価の重要な要素になっており，資金調達にも影響が出るようになってきている。

私は業務上 鉄鋼の需要家の皆さまと接する機会が多く「NKK の鉄鋼製品はエコプロダクツですか」という質問を多く受けます。これは，「鉄鋼製品自体が需要家の皆さんにとって高効率，軽量化，有害物質フリー，リサイクル可能などの環境負荷低減になっているか」ということと同時に「鉄鉱石の採鉱から鉄鋼商品までの一連の製造プロセスがエネルギーおよび環境負荷の低減になっていますか」ということです。鉄鋼メーカーとして製造，製品の両方の観点から一連のプロセスでの環境負荷をミニマム化すべく LCA（ライフサイクルアセスメント）の最適化を追求していく必要があります。

今回の環境調和型鉄鋼技術の特集号では，上記 LCA の最適化の観点から生まれ，デファクトスタンダード化が進んでいる「環境にやさしく調和する鉄鋼製品」と同時に，「鉄鋼製造プロセスでの環境負荷低減技術」を紹介致します。

環境問題への対応を重点経営課題と位置付け、今後とも研究、製造、営業それぞれの立場の力を結集し社会のニーズにタイムリーかつ迅速に応えていきたいと存じます。

10月より我々はJFEグループとして再出発致します。川崎製鉄㈱、当社の両社の環境調和技術メニューは増え、シナジー効果も期待できます。より多くの独自技術を開発し、その成果を社会に発信していきたいと考えております。

今後とも益々の皆様のご批判、ご指導を賜りますようお願い申し上げます、巻頭言と致します。